

本調査は、貴事業所における食品廃棄物等の発生量、発生抑制、減量、再生利用の取組状況等について伺うものです。
 記入に当たっては、平成16年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）1年間について、記入してください。
 なお、上記期間での記入が困難な場合は、記入が可能な直近1年間について記入してください。

問1 貴事業所における事業活動^{※1}に伴う食品廃棄物等^{※2}の発生状況及び再生利用の状況について記入してください。（t単位で単位未満は四捨五入してください。（例）0.5t→1t 0.4t→0t なし→-）

	食品廃棄物等の年間発生量計 ①	自事業所で減量した量 ^{※3} (焼却は除く) ②	減量した後の食品廃棄物等の年間発生量 ③=①-②	再生利用への仕向量 ④
	十 万 千 百 十 壹	万 千 百 十 壹	十 万 千 百 十 壹	十 万 千 百 十 壹
動植物性残さ				
廃食用油				

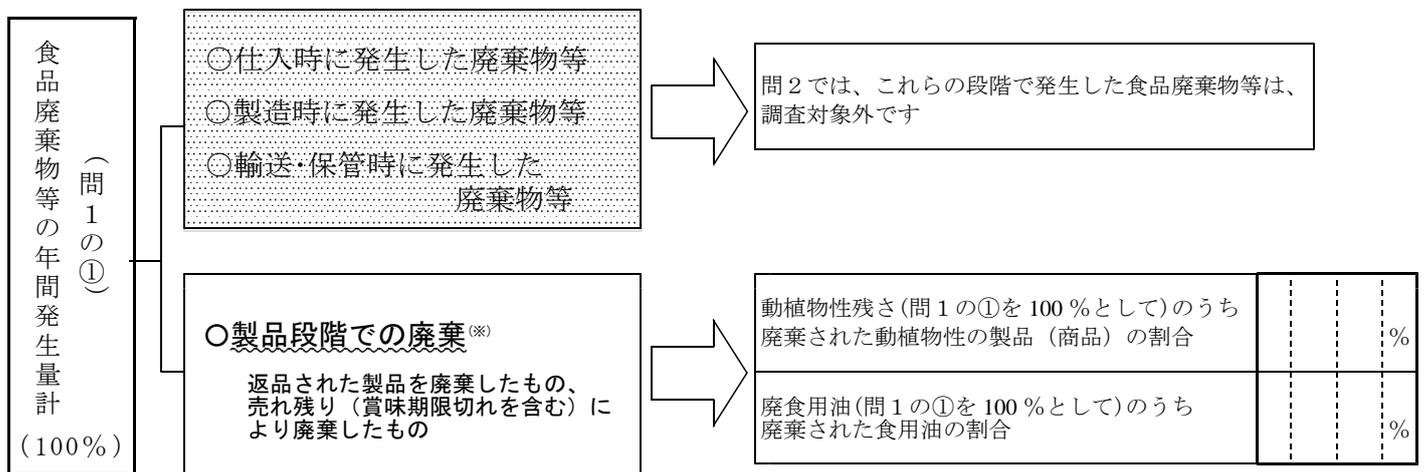
	自事業所又は自社で再生利用 ⑤	委託による再生利用	
		有償で売却 ⑥	無償又は自己負担で委託 ⑦
	十 万 千 百 十 壹	十 万 千 百 十 壹	十 万 千 百 十 壹
動植物性残さ			
廃食用油			

※1 貴事業所が、製造業以外の事業(卸売、小売等)を営んでいる場合、これらを含んだ事業所全体の発生量等について記入してください。

※2 食品廃棄物等とは、次のものをいいます。なお、中間処理されることなく、他者に食用として売却・譲渡したものは除きます。
 (1) 食品が食用に供された後に又は食用に供されずに廃棄されたもの。
 (2) 食品の製造加工又は調理の過程において副次的に得られた物品のうち食用に供することができないもの。

※3 自事業所で減量した量とは、自ら発酵などの中間処理により食品廃棄物等の重量を減少させた量をいいます。

問2 食品廃棄物等の発生量のうち、製品となった後発生した量の割合を記入してください。（食品廃棄物等の年間発生量（問1の①欄）を100%として整数で記入してください。）



※ 貴事業所が製造業のほか卸売や小売等の事業を営んでいる場合、製造部門から出荷した製品の返品等によるものほか、卸売、小売部門等から出荷した製品の返品等によるものを含んだ事業所全体の量の割合を記入してください。

問3 食品廃棄物等の発生の抑制の取組状況

(1) 貴事業所では、食品廃棄物等の発生量を減少させるため、食品廃棄物等の発生を未然に抑制する取組（発生の抑制の取組）をしましたか。該当する番号に○印をしてください。

平成15年度以前から発生の抑制に取り組んでいる	平成16年度から初めて発生の抑制に取り組んだ	平成16年度まで発生の抑制に取り組んでいない
1	2	3

問4へ

(2) どのような、取組をしましたか。該当する欄に○印をしてください。

発生抑制の取組方法	平成15年度以前から取り組んでいたこと	平成16年度に新たに取り組んだこと	平成16年度から初めて取り組んだこと
		平成16年度に取組を強化したこと	
仕入過程			
製造・調理過程			
輸送・保管過程			
販売過程			

(3) 上記(2)の取組により、平成16年度の食品廃棄物等の発生量(問1の①欄)は、どの程度少なくなりましたか。平成15年度の食品廃棄物等の発生量と比較して、発生の抑制できた割合を整数で記入してください。

食品廃棄物等の発生の抑制割合		%
----------------	--	---

※発生の抑制割合は、次により算出してください。

$$\frac{\text{平成15年度の食品廃棄物等の年間発生量} - \text{問1の①平成16年度の食品廃棄物等の年間発生量}}{\text{平成15年度の食品廃棄物等の年間発生量}} \times 100$$

なお、処理方法が前年と大きく異なる等上記式での算出が困難な場合は次により算出してください。

$$1 - \left[\frac{\text{問1の①平成16年度の食品廃棄物等の年間発生量}}{\text{平成16年度の年間製造量等}} \right] \div \left[\frac{\text{平成15年度の食品廃棄物等の年間発生量}}{\text{平成15年度の年間製造量等}} \right] \times 100$$

問4 食品廃棄物等の減量の取組状況

貴事業所内で自ら減量の間処理を行っている事業所(問1の②欄に記入された事業所)の方が記入してください。(該当されない事業所の方は問5へ進んでください。)

どのような方法により減量を行っていますか。該当する番号のすべてに○印をしてください。

脱水	乾燥	発酵 ^{*1} (微生物等による発酵での減量)	炭化 ^{*2}
1	2	3	4

※1 発酵

生ゴミ等を微生物等の働きにより中の成分を分解し一部の成分を消滅させることにより減量すること。

※2 炭化(たんか)

これまでの焼却により食品廃棄物を灰としてきたものを、処理物の熱分解(蒸し焼き等)により炭として残すこと。

問5 食品廃棄物等を食品循環資源として再生利用した時の仕向状況
再生利用を行っている事業所（問1の④欄に記入された事業所）の方が記入してください。
（該当されない事業所の方は問7へ進んでください。）

どのような用途の再生利用を行っていますか。再生利用への仕向量（問1の④欄）を100%として、用途別の仕向割合を整数で記入してください。なお、「その他」に記入された方は、カッコ内に具体的な内容を記入してください。

再生利用の用途別仕向け割合

用 途		動植物性残さ		廃食用油					
		割合	%	割合	%				
食法 用品で 用 り 規 途 サ 定 イ し ク て ル い	肥料化		%		%				
	飼料化		%		%				
	メタン化 ^{※3}		%	/					
	油脂及び油脂製品化（石鹸、洗剤等）		%						
食品用（食品添加物、調味料、健康食品等）			%	/					
工業資材用（舗装用資材、塗料の原料等）			%						
熱源として事業所内又は委託先で利用 （ゴミ固形燃料は除く）			%		%				
その他（ゴミ固形燃料を含む）			%		%				
不 明			%		%				
食品循環資源としての再生利用への仕向量		1	0	0	%	1	0	0	%

※3 メタン化
 生ゴミ等をメタン菌を主とする微生物で発酵させることにより、その段階で得られたガス（メタンガス）をエネルギーとして利用すること。

以下の空欄に「その他」の内容を具体的に記入してください。

問6 食品廃棄物等を食品循環資源として再生利用するに当たっての経費

(1) 再生利用に要している年平均経費は、再生利用に取り組む以前の食品廃棄物等の処理費用と比べると、増加しましたか、減少しましたか。再生利用の方法別に該当する番号に○印を記入してください。

再生利用の方法	増加した	減少した	ほぼ変わらない
自事業所又は自社で再生利用	1	2	3
委託により再生利用	1	2	3

問7へ

(2) どの程度増減しましたか。該当する番号に○印を記入してください。

再生利用の方法	増 減 割 合					
	10%未満	10～20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上
自事業所又は自社で再生利用	1	2	3	4	5	6
委託により再生利用	1	2	3	4	5	6

問7 食品廃棄物等を食品循環資源として再生利用を推進するに当たっての課題について、主なものを3つまで選び、該当する番号に○印を記入してください。

- 1 異物の除去等分別の徹底
- 2 食品廃棄物等の保管場所の確保や臭気対策
- 3 再生利用に要するコストの低減
- 4 再生利用業者、再生利用施設、再生利用製品の利用先等の確保
- 5 再生利用製品の新規用途の開発等再生利用に関する技術開発
- 6 再生利用製品の品質・安全性の確保、低価格な供給
- 7 食品関連事業者、再生利用業者、利用者の連携
- 8 再生利用処理施設、運搬、委託等の共同化
- 9 公的補助による再生利用事業の育成
- 10 リサイクル施設を設置するに当たっての周辺住民の承諾

調査へのご協力ありがとうございました。